

日本応用心理学会公開シンポジウム 2013

well-being の心理学

～今、そしてこれからの well-being 研究の応用・実践～

2013 年 12 月 7 日 13:30～16:00 於：東京未来大学 B 棟 421 教室

自分の住む社会が豊かで安定したものであるように誰もが願っているはずである。そしてわれわれが満足できる、生きがいを得られる、そういう意味での well-being を願いながらも、現実にはなかなか果たせないものでもある。

これまで、生活の利便性、物質的な豊かさを求めてきたのが人間社会の歴史のようにも考えられる。その動機は生活の仕方の選択の可能性、思考の可能性を広げてきたと言えよう。しかし、それが、高質の生き方に直結しているとは考え難いことが少なくない。

さらに、時代による変化もあるが、大勢を占める価値観は個人を超えて同じではないので、それぞれ異なった視点から well-being を追求し、結果的になかなか個人を超えて一致することも少ないかのようである。しかし、どこかに「合理解」はあるはず。人類が常にどう生きていっただいのかとの解を求め続けることがその証明になろう。

well-being を主題として、心理学的視点から、どのようにして個人の求める well-being と、社会としての well-being を同時に高めていけるのか。その合理解をどう求めていけるのかについて考えたい。そして、これまでの well-being にかかわる研究の流れをふまえながら、さらにこの先、どのようにして well-being 研究をより実践的、応用的に展開していったらいいのかについて議論したい。

すべからく well-being は個人－関係－社会・環境とのつながりの中でこそ問題にできるものであり、この点からの話題提供を受け、皆さんとともに考えていきたい。

主催：日本応用心理学会 企画：日本応用心理学会企画委員会

後援：東京未来大学モチベーション研究所

司会 大坊郁夫（東京未来大学）

話題提供者

上出寛子（大阪大学大学院基礎工学研究科助教）

人・環境の well-being な関係を目指す

田中 共子（岡山大学大学院社会文化科学研究科教授）

社会・文化をつなぐソーシャルサポート

堀毛一也（東洋大学社会学部教授）

持続可能な well-being をどう目指すか

指定討論者

藤森立男（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授）

大坊郁夫